

社会科学の基礎B		教授 丸山 高行	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	22200108

1. 授業のねらい・概要

この科目は、極めて広い学問領域である「社会科学」について、エッセンスを効率よく学ぶことを目標とする。また、単なる各種資格試験対策の知識吸収にとどまらず、これから学生諸君が立派な社会人として世界各国で活躍するための、基礎固めができることを目指す。「社会科学の基礎B」では、「社会科学の基礎A」で学んだ知識をベースに、ビジネスの世界と密接に関連する社会科学の諸分野を取り上げる。

2. 授業の進め方

基本的には、配布資料や参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、授業の開始時に、その日の授業で学習する内容に関して2問程度練習問題を提示し、集中して考える時間を設ける。

3. 授業計画

1. イントロダクション（「社会科学の基礎A」の復習）	9. 日本の官僚制度と地方自治
2. 金利の期間構造と日銀の役割	10. 税制の基本的な仕組み
3. 日本の社会保障制度（年金、医療、介護）の仕組み	11. 財政政策と金融政策①（財政政策）
4. 公的年金と企業年金	12. 財政政策と金融政策②（金融政策）
5. 保険の機能と役割	13. 国際収支と為替レート
6. 個人の資産運用	14. 日本の近代化の歩み
7. 日本とアメリカの選挙制度	15. 全体のまとめ（日本に期待される国際貢献）
8. 三権分立と司法の役割	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業終了後、授業中に提示された練習問題を中心に、授業の内容を自分なりに整理してまとめておくこと。こうした復習のための準備学修には、最低1時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

社会科学に関する研究レポートの提出を求めるが、希望者には添削してフィードバックする。

試験については終了後、各自に模範解答を配布するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

6. 授業における学修の到達目標

社会科学のうち、特にビジネスに直結する諸分野の基礎知識が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、「社会科学の基礎A」に引き続き現実の企業活動や決算発表、株式・債券市場の動きなどのホットな話題にも適宜触れるので、2年次以降、経済学や経営学についてさらに勉強しようという意欲が高まることを期待する。

7. 成績評価の方法・基準

レポートを含めた授業への取り組み姿勢（40%）および定期試験の結果（60%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは使用しないが、授業の進捗に合わせて、適宜参考文献を紹介する。

9. 受講上の留意事項

基本的に「社会科学の基礎A」で学んだ知識を前提に授業を進めるので、セットで受講することが望ましい。